



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2018年 秋・冬号

No.176

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会

TEL：0745-22-1101

<http://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/>

このバンブーシューツ(筍)が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように



リズモー交換留学生アンケート 2018.9.29～10.11 滞在

1)大和高田市の第一印象は？

- ・想像していたものより、ずっと活気のある町だった。そして、西洋の人たちは全くいなかった。美しい景色だった。
- ・美しい山々に囲まれ、文化に溢れていた。
- ・すべての家は良い感じだった。通りはとても混んでいて、狭かったのが、少し怖かった。田んぼが家の近くにあり、驚いた。
- ・大和高田市の第一印象はとても良かった。人々は、とても歓迎してくれ、ほとんどの人々は、少しは英語を上手に話していた。大和高田の料理は、オーストラリアのものとは違っていたが、とても美味しかった。たくさん文化や歴史について楽しく学べた。
- ・最初は、生活の基盤となる施設や設備などの違いに驚いた。そして、夜の町は美しく、超現実的な感じがした。
- ・町は歴史にあふれ、また美しい所もたくさんあった。

2)文化や習慣の違いで一番驚いたことは？

- ・学校では靴を履き替えたり、お茶碗を手に持って食べ、食事の前と後に「いただきます」や「ごちそうさま」と言っていた。お店に入ると、店員はすぐに挨拶をしてくれた。
- ・毎日の生活の中で違ったことは、お風呂、食事や靴を脱いで家に入ること。
- ・みんなとても礼儀正しくて、なんでも助けてくれた。違うと思ったことは、家の中では靴を脱いでスリッパに履き替えること。そして、学校生活で驚いたことは、生徒たちは靴を履き替えることで清潔にしていたこと。
- ・日本に来るまでは、食事の前に「いただきます」ということを知らなかった。それに慣れるのには少々時間がかかり、また正しく言うためには、さらに時間がかかった。このような習慣は、オーストラリアにはないので驚いた。
- ・あらかじめ家に入る前には、靴を脱ぐことは知ってい



たが、何度も靴を脱がなければならないのには驚いた。

- ・前に日本に来たことがあったので、文化の違いにあまり驚かなかった。違いがあるので、日本が大好きになるのです。



3)ホストファミリーについて、一番印象に残っていることは？

- ・ホストファミリーの方々は、私を家族のように扱ってくれ、言葉の壁さえも乗り越えようと努力してくれた。
- ・私を受け入れてくれて、とても幸せで、言葉の壁にも耐えてくれた。
- ・とても優しくて礼儀正しかった。オーストラリアの文化や習慣について学んだり、もっと英語を学ぼうと熱心だった。家族が作ってくれた食事も、本当に美味しかった。
- ・ホストファミリーの方々には、とても感銘を受けた。みんなとても熱心で、退屈なときはなかった。私たちはいつも何かをしていて、天気がどうであれ、神社に行ったり、早朝から自転車に乗ったりした。ホストファミリーのメイ、ハルテと一緒に暮らした3人の友達と、本当に楽しく過ごした。
- ・ホストファミリーのおもてなしや歓迎は、とても活気的でいつも幸せ一杯で、天候にかかわらず、夜遅くに自転車に乗ったり、早朝にサプライズでお客さんが来たり、町を探検したり、退屈なときは全くなかった。
- ・とても優しくて歓迎してくれた。

4)広島で印象に残ったことは？

- ・広島はとても良かった。栄えていたが、まだ傷の癒えない町だった。雰囲気は、大和高田とは違った所が少なからずあった。広島は見るものすべて美しかった。
- ・広島は本当に楽しめたし、とても特別な良い経験ができた。
- ・広島では、素晴らしい経験ができた。広島の歴史を見たとき、とても悲しくなり、不安になった。そこで見たものの中には、実に目を見張るものもあった。博物館では、悲しくて見られないような写真も何枚もあった。
- ・広島訪問で驚くような悲しい歴史について学んだ。日本人々はこの町を完全に建て直すのに、どのようにやり遂げたのだろうと、感銘を受けた。
- ・広島は素敵な町で、美しい景色だった。平和公園で歴史や折鶴の作り方を学べた。私の第一印象としての驚きは、このような大きな町に出会えたこと、そしてその歴史や文化を経験できたことだった。
- ・広島への旅は、素晴らしかった。宮島は訪問するのに良い所だった。平和記念公園や原爆ドームを訪問して思ったことは、いつまでも忘れずに、平和のメッセージを伝えていくことの大切さだった。





ホストファミリーアンケート 2018年

1) 派遣学生を受け入れて、戸惑ったことは？

- ・温泉旅行を予約したが、行く前になって行きたくないと言われた。入浴の仕方をアメリカ人の友人から英語で説明してもらい、他に外国の人が入っているのを見たので、温泉に入ることができた。温泉を好きになってくれたので結果的にはよかったが、予約してあるのに行きたくないと言ったときは困った。
- ・洗濯が大変だった。
- ・何を言っているか理解できなかったことがあった。食べたいものや、行きたい場所を聞いても、すべて任せると意見を言ってくれなかったので、どうすれば喜ぶか戸惑った。
- ・おとなしく、しっかりしていて、いつも笑顔で何でも話してくれるので、やりやすかった。
- ・家族が英語での会話に戸惑い、最初口数が少なくなった。日が経つにつれ、少しずつ慣れてきて、自然と会話やジェスチャーで意思疎通できるようになった。

2) 文化(習慣)の違いを実感したことは？

- ・日本人と比べて、食べものを残すことに抵抗がないと思った。
- ・ホストファミリーである自分の話す英語がダイレクト過ぎる、ストレート過ぎると思うので、「気を悪くしないでね」と伝えていました。
- ・靴を履いたまま家に入ったり、裸足で道を歩いたりしていた。寝るのが早かった。体感温度が違うと思った。寒い日でも薄着だった。
- ・食文化の違い。日本では魚が主なものに対し、リズムーでは肉が多く、魚は値段が高いらしい。朝起きると洗顔もなく、すぐに食事をするのに驚いた。箸使いが上手だった。リズムーの和食レストランで食べていたようだ。

- ・食事や入浴など、日本の文化を理解していて、滞在中は、日本の生活様式に合わせて過ごしていたので、大きな違いは感じなかった。

3) 一緒に過ごして楽しかったこと、嬉しかったことは？

- ・自分たちの知らないオーストラリアのことや、英語を教えてもらったこと。
- ・みんなフレンドリーで嬉しいし、困ったことはありません。
- ・USJや大阪、猫カフェなどへ一緒に出かけたこと。餃子と一緒に作り、花火やジェンガをして一緒に遊んだこと。ときどき、伝えたいことを分かってあげられなかった。
- ・日本文化にとっても興味があり嬉しかった。髪を結い上げて着物を着せてあげると、とても喜んでくれた。習字、墨絵等にも喜んで取り組んでくれた。日本の和室をととても気に入り、床の間、違い棚、額飾り、掛け軸、ふすま、障子等を興味深く眺めて、この部屋が一番好きと言ってくれた。毎晩のように大勢でゲームやカード遊び等、座敷で笑い声が響き、毎日が楽しかった。碁を知らなかったので、碁会所へ連れていき、説明してあげた。碁石で五目並べをして楽しんだ。日本の寺(法隆寺)、城(大阪城)、心齋橋、日本橋等の見学、お好み焼きを食べ、大和郡山市で金魚すくいをした。USJで一日過ごし、とても嬉しそうだった。日本が大好きになったようなので、また日本に来てくれると信じている。
- ・料理を一緒に作ったり、共通の話題で盛り上がり、とても楽しい時間を過ごせた。

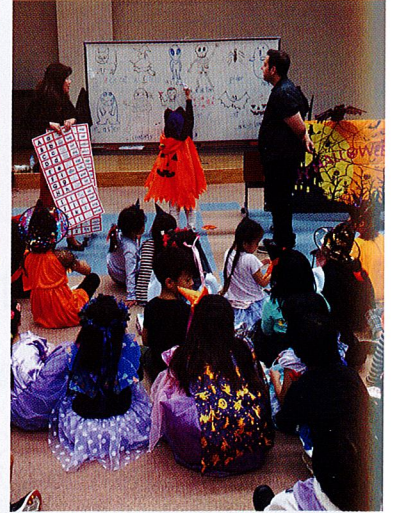
4) また、機会があればホストファミリーを引き受けたいですか？

- ・また引き受けたい。
- ・都合があえば引き受けたい

The Bamboo English Class

Happy Days with Claudio!!

国際交流事業のひとつとして3年前に、英語にふれあい楽しめる講座を月2回開講しました。バンブーイングリッシュクラスでは、市内在住の4歳から12歳の子どもの対象に、幼稚園クラスと小学生クラスがあり、外国人講師のクラウディオ・ロペスさんと協会会員と一緒に五感を使って、歌ったり踊ったりしています。また、子どもたちは、日常生活の身近なテーマで英語に親しみ、簡単な英会話を楽しんでいます。



How happy I am!



英語講師
クラウディオ・ロペス

今年は私がバンブーイングリッシュに携わって3年目にあたり、私は参加してくれている生徒たちを心から誇りに思います。生徒たちは、基本的な英語の技術を学び進歩しています。また、私は生徒たちに私の故郷アメリカにある片田舎の物語を伝えたりしています。そして生徒たちは、私の興味あるレッスンを楽しくしてくれるようになってきています。こういう訳で、私は生徒たちが出来るだけ多くの英語を学び取り、楽しくしてくれることが出来るように、バンブーイングリッシュを通して英語を楽しく教えています。

生徒たちに対しての私の目標は、生徒たちが流暢な英語を話せるようになり、そして、広い視野を持ち、英語という言葉を使って世界中を旅行したり出来るようになってくれることです。